

平成 28 年 6 月 18 日

北関東フォーラム

於：シムックス

**中斎塾 北関東フォーラム
平成 28 年度第 6 回**

至誠惻怛の確認

先程、猪瀬理事長が挨拶をされました。今、世の中には色々な勉強会やら講演会があります。中には儲けばかりに走っている会がありますが、それでは心が荒んで来る。心が荒んでくると、日本の国は良くはなりません。中斎塾で学んでいると、人生をどう歩んでゆけばよいか、世のため人のために行動するにはどうしたらよいか、知らず知らずの間に沁みこんでくる。中斎塾に来ていると、心がさっぱりして良いものです・・・という話でした。

また、「至誠惻怛（しせいそくだつ）」という言葉が言われました。たまたま私は明日、岡山県高梁市で行われる方谷祭で「山田方谷先生の人間味」と題して講話をさせて戴くので、「至誠惻怛」について少し解説致します。

山田方谷の人生の判断基準が「至誠惻怛」です。「至誠」とは誠意・まごころ、「惻怛」は思いやりですから、誠意を尽くし、思いやりをもって人に対しなさいという教えです。では、「至誠惻怛」について、皆さんは具体的にどんなことを実行されますか？

難しく考えなくても、まごころを込めて、嘘をつかなければよいのです。約束を守ればよいのです。相手を思いやるとは、ありがとうと言われることです。つまり、いつも中斎塾フォーラムで確認している質問と同じです。

早速、恒例の質問を致します。初めて参加される方もおられますが、中斎塾フォーラムでは、夜寝る時に自分自身で確認して戴く項目がいくつかあります。ちなみに渋澤栄一さんは寝る前に、＜今日はどなたに会って・どういう話をして・どういう約束をしたか＞、一通り思い出してから眠りについたという話は有名です。そういう習慣を実践し、結果として「渋澤老人の記憶術」といわれるものに繋がりました。

では、質問致します。もう半年過ぎましたから、この半年間でお答えください。

- この半年間、嘘をつくことが比較的少なかった方
- この半年間、比較的良い日が多かった方

何度も申しますが、良い事と悪い事を天秤にかけないで下さい。自分自身の心の中に少

しでも良かったと思うことがあったなら、それを膨らませて良い日だったと思えばよいのです。

○ この半年間、有難うと言ひ、有難うと言われることが多かった方

有難うと言うのは当たり前ですが、思いやりの心を証明するには、有難うと言われるかどうかです。年輩になると、なかなか有難うと言われることが少ないようですから、意識して人さまに何かして差し上げるよう心掛けるとよろしいでしょう。

○ この半年間、毎日のように健康法をしている方

私の体験を申しますと、朝、50回の屈伸を一年くらい続けています。この前、もう少しやってみようと思って挑戦したら、倍の100回出来ました。同じ訓練をずっとやり続けるとかかなり基礎的な筋肉が出来て、倍の回数をやっても、それ程難くこなせます。まずは最初の1回が肝心です。どういう健康法でもよいから、継続させていくと必ず役に立ちます。

私は今年3月18日の誕生日から自転車に乗り始めました。来年70歳になりますが、70代は体力がつるべ落としのように落ちると聞きますから、落ちるペースを出来るだけゆっくりにしたいと思っています。毎日30分ストレッチをしてから、30分以上自転車に乗って体力アップをはかっています。今日で3ヶ月になりましたが、太ももの筋肉が異常に発達してきたと実感しています。

ということで、健康法は毎日少しずつされるとよろしいと思います。無理をせず、良い加減で継続することが大切です。

○ 昨晚寝る時に、明日以降を過去形でイメージ出来た方

だいぶイメージできる方が増えました。嬉しいですね。

○ この半年間、自分磨きをしている方

自分で自分を磨こうと思わないと、なかなか出来ません。自分磨きは、事上磨練という言葉がよいと思います。

無い物ねだりをしない

猪瀬理事長の話にもありましたが、お金儲けについてお聞きします。

○ お金が好きで好きでたまらないという方

○ お金はほどほどあれば良いと思っている方

皆さん、ほどほどの方に手が挙がりました。木内信胤先生もそう言うておられました。前にもお話しましたが、日本一の金持ちと云われた岩崎小彌太さん（信胤先生のお母様の従兄弟）の家に遊びに行くと、夜中に小彌太さんが家中の戸締りを確認して回るので、朝

方、眼を真っ赤に充血させていた。子供心に「金持ちは嫌だな」と思ったそうです。

お金はほどほどにあれば良いのであって、沢山あってもどうにもなりません。もっともっと欲しいと思うのではなく、これで十分だと思う。前回お話ししたホセ・ムヒカさんの生き方を見ると、とても素晴らしいと思います。「何もなくても、人にあげられるものはある」という言葉が印象に残っています。今の世の中はお金で動いているけれども、お金は人の心を狂わせます。ですから「足るを知る」とは、無い物ねだりをしないこと。今あるもので心が満足する、そういう心の持ち方をしましょう。

出处進退は自分で決める

では、本日の論語に参りましょう。憲問篇三十五～三十七です。

【三五】 しいわ子曰く、き驥はそ其のちから力をしょう称せず。そ其のとく徳をしょう称するなり。

孔子が言うには、驥は千里を走る名馬であるが、その力を評価するのではなく、その品格を讃えるのだ。

この文章は、木鶏に置き換えてみると分かりやすいですね。井澤幹事は前橋木鶏クラブの会長さんですから、木鶏について皆さんに説明して下さい。

(井澤幹事) 木鶏とは中国の故事で、最高の闘鶏は木彫りの鶏のように微動だにしなかった。相撲の双葉山が目指した境地で、現在の横綱の白鵬も連勝が33で止まった時、支度部屋で「いまだ木鶏たりえず、だな」と話したそうです。

有難うございます。少し補足を致します。

これは中国の闘鶏（鶏どうしを戦わせる）の話です。中国の或る王様が、自分の出す鶏は王者でなければならぬと命令を出して、鶏を調教師に預けます。調教師は一所懸命、鶏を訓練します。十日ほど経って、王様が仕上がりを見かねると、「まだまだ空威張りで、相手を威嚇するだけです」と答えます。また十日経って見かねると、「威嚇することはなくなりましたが、強そうな相手に昂奮するので、まだです。」更に十日経って、もうよいだろうと思って見かねると、「相手を睨みつけて、圧倒しようとするところがあります」と答えます。更に十日経って、「相手がいくら挑発してこようとも、木彫りの鶏のように泰然自若としています。その風格の前に、かなう闘鶏はいないでしょう」と答えました。つまり、十牛の図の最後の「悟り」の段階に達していて、闘わずして勝つ極意を掴んでいたという話です。

この話を、安岡正篤先生は往年の双葉山にされたそうです。その後、双葉山は木鶏のよ

うな大横綱を目指して精進し、69連勝という偉業を成し遂げるわけです。その連勝が止まった時、安岡先生は船旅に出ておられて、船上で「われ未だ木鶏たりえず 双葉」という電報を受け取って、「双葉山が負けたな」とポツリと言われた、というエピソードがあります。白鵬は、その双葉山を目指して精進しているという話に繋がります。

今の政治で考えます。イギリスでEUを離脱するかしないかの国民投票が行われます。先日、残留を支持した四十一歳の女性議員が集会の最中に殺されました。そういう実力行使をすること自体とんでもない話ですが、票を沢山集めた人が当選するという政治の仕組みも、そろそろ考えるべき時期に来ているのではないかと感じます。今ある世の中の仕組みは皆、何かしら金属疲労を起こしているような気がしてなりません。

こういう古典を読んで、良いなと思うものを現代に置き換えてみる習慣を身につけて戴きたいと思います。

【三六】^{ある}或ひと曰く、^{いわ}徳を以て^{とく}怨に^{もつ}報いば^{うらみ}何如と。^{むく}子曰く、^{いかん}なにを以てか^し特に^な報いん。^し直を^{もつ}以て^{うらみ}怨に^{むく}報い、^{とく}徳を以て^{もつ}徳に^{むく}報いんと。

或る方が言われた。「怨みを抱いた時に、徳をもって返したらどうでしょうか。」

孔子が答えました。「では、徳に対しては何を返すのか。私は公平無私の立場で、怨みに対して客観的に考えて対応する。徳に対しては徳で返すがよかろう。」

「徳を以て怨に報い」という台詞は、蒋介石が使ったことで知られています。日本が敗戦国になった時、当時の中国国民党の蒋介石総統は「怨に報いるに徳を以てす」と言って、日本に賠償請求をしませんでした。政治の裏面史を調べてゆくと、蒋介石には綺麗な話だけでなくドロドロしたものもありますが、これはかなり有名な美談として残っています。蒋介石は、親交のあった安岡正篤先生が戦犯に問われた時、「安岡正篤先生ほどの人を戦犯にしてはならない」とGHQを説得し、そのため安岡先生はすぐに放免されたという話も残っています。

現代に置き換えて考えます。「直を以て怨に報い」という部分で、今、舛添都知事がマスコミにさんざん叩かれています。舛添現象という悪いイメージで名を残す結果になりましたから、それを覆すのは本人も相当大変でしょう。悪あがきが過ぎますね。

会社を経営している人や組織の長、政治に携わっている人であれば、自分の出处進退は自分で決めること。尚且つ、予め決めておく必要があると思います。出处進退を決めてお

くには、具体的な判断基準が要ります。例えば、耳が聞こえなくなってきた、眼が見えなくなってきた、花の香りが分からなくなってきた、歩けなくなった…等々物理的な自覚症状がありますが、そのなかでも私は、香りが分からなくなってきたら引退だと思っています。目が見えなくても、耳が聞こえなくても仕事は出来ます。ただ、香りが分からなくなるのは認知症の始まりだそうです。他にも、歩けなくなったらどうにもなりませんね。足が本当に動けなくなったら引退を考えた方が良く、香りが分からなくなったら即座に辞める決断をした方がよさそうです。

また、こういう判断が自分で出来る時は良いのですが、判断しているつもりでもきちんとした判断が出来なくなった時、言動がおかしくなった時には、それを指摘してくれる友人や知人を作っておく必要があると思います。

【三七】子曰く、我を知る事莫きかなと。子貢曰く、何為れぞ其れ子を知る事莫きやと。子曰く、天を怨みず、人を尤めず。下学して上達す。我を知る者は其れ天かと。

孔子が言いました。「私のことを理解する者は、もうこの世には誰もいない。」

子貢が言いました。「どうして理解してくれる者がいないなどと言うのですか。」

孔子七十歳手前の頃です。一番弟子の顔回が亡くなって、自分の事を理解してくれる者はもうこの世にいない。子貢は頭が良いけれども、その境地ではない・・・と、孔子が少し草臥れた感じで愚痴を言っているイメージ、対して子貢は若くて口八丁手八丁ですから孔子にハッパをかけるように読めばよいでしょう。

孔子が答えました。「天を怨まず、人も咎めない。世の中の人々が私を理解してくれないのであれば、天がそうさせているのだから、目の前の事を気にせず天命に随おう。もう私を理解する者は、天しかいないだろう。」

残念ながら、もう世の中で用いられることはないだろう。私のことを分かってくれるのは天しかいない・・・人智を超えた天上世界に身を委ねようという悟りの境地に入っているような気がします。愚痴も言うし嘆きもする、人間臭い孔子像が伝わって来ます。

自分自身の判断基準は？

判断基準をお持ちの方は沢山おられると思いますが、例えば、急に振られて大勢の前で話をしなければならなくなると頭が真っ白になってしまった。或いは事故に遭って何も考えられなくなってしまう。こういうパニック状況に陥った時、これはという判断基準をお持ちの方はおられますか？

・・・残念ながらおられません。

では、そういう特殊な状況ではなく、日常生活において「さて、どうしようかな」と考える時の判断基準をお持ちの方はどうでしょうか？

・・・何人か、手が挙がりました。梅川理事に伺います。ご自分の判断基準は何ですか？

(梅川理事) 私は中斎塾で教わっているように、本質的にどうか、歴史的にどうか、大局的にどうか、その三つの観点で解釈して判断するよう心掛けています。

有難うございました。中斎塾フォーラムに参加しておられると、知らず知らずのうちに判断基準が自分の中に残るようです。判断の三原則（本質・大局・歴史）もその一つです。山田方谷流に言えば、「事の外に立ちて事の内に屈せず」です。事の外に立つとは、梅川さんが言われた大局観を持つということです。何か問題があったら、その中にどっぷり浸かって渦に巻き込まれるのではなく、そこから一步出て、客観的に大局的にものを見なさいということです。

私自身の判断基準は「利に放りて行えば、怨多し」です。目先の欲につられて軽挙妄動すると、後でとんでもないしっぺ返しが来るということです。先程お聞きしたところ、お金をもっともっと欲しいと思っている人はいませんでした。「もっともっと」ではなく、「まあ、これくらいかな」と常に思っていないと、次第に心が荒んで来ますから、お金の対処の仕方についても自分自身の判断基準を持っておく必要があります。

ちなみに、「義に臨んで一步進め、利に臨んで一步退く」と言ったのは三島中洲です。しかしながら三島中洲の生涯を調べて見ると、義に臨んで一步進んでいましたが、利に臨んでも一步進んでいました。しかも、世間に対して色々な言い訳をしながら稼いでいました。

舛添都知事の場合、潔く謝ってしまえば次の芽もあるかもしれませんが、どんどん悪い話ばかりが出てきて、素直に認めないからいけません。日本人は往生際が悪いのを好みませんから、桜の花のように潔く散れば良いのにと感じました。

先ほどお話した出处進退の話しに繋がりますが、舛添さんの行動を見ていて感じたのは、政治家の給料が多過ぎるのです。政治家は自分の本業があつて、政治はボランティアですべきだと私は思っています。政治活動に助成金を出そうと自分たちで決めて、国からお金を貰って政治活動をするのが当たり前だと思うこと自体、間違いだと思います。自分の生計は自分の本業で立てて、それが一段落した後に、余生を政治に捧げる。もしくは本業をしながら、政治活動に携わる。さもなければ、浄財を戴くような仕組みを作って政治活動をする。宗教の活動も同じだと思います。

是非とも、ご自分の判断基準を持たれるようお願い致します。

お時間が参りました。最後に、本日の紹介書籍を申します。村上和雄さんの『幸せの遺伝子』です。「ありがとう」「おかげさまで」「もったいない」といった日本人が大切にしてきたひらがな言葉が、幸せの遺伝子をONにして眠っている力を引き出す、とあります。

私は、人生を豊かに幸せに生きるのは、「ありがとうございます」一つで良いと思っています。腹が立っても「ありがとうございます」、何でも全て「ありがとうございます」と思う。

「ありがとう」という言葉は、有ることが難い、つまり滅多に起きない事が起きるという意味です。「盲亀浮木（もうきふぼく）」の説法はご存知ですか？ お釈迦様が弟子の阿難に、「大海原の底に眼の見えない大きな亀がいて、百年に一回、海面に顔を出す。その海に一本の丸太が漂っていて、その真ん中には一つの穴があいている。百年に一度、浮かび上がった亀の頭が、大海原を漂う丸太の穴にスポンと入った。どうだい、こういうことが起きると思うかい」と聞きます。阿難が「そんなことは起きるはずがないでしょう」と答えます。するとお釈迦様は、「私たちが人間に生まれることは、それくらい難しいこと、有難いことなんだよ」と説いたという話です。

「ありがとう」とは、それくらい重みのある言葉だと申し上げて、本日の講話を終了致します。